

新島襄関連の文献目録（35）

—著者・筆者別—

同志社社史資料センター

お知らせ

『同志社談叢』に掲載された「新島襄関連の文献ノート」(1)～(24)は、本学人文科学研究所により一括して再配列され、『新島襄関係文献目録』（非売品）として2006年12月に刊行された。

凡例

1. 配列は著編者名をアルファベット順にした。同一の著編者による文献は、発行（発表）年月日順とした。
2. 著編者については、次のような例外がある。
 - (1)無署名の文献のうち、筆者を特定しうる場合は〔 〕内に表示した。
 - (2)著編者が不詳の場合は、その文献が掲載されている雑誌名及び新聞名を著編者欄に掲げた。
 - (3)ペンネームの場合、それが本名より周知されている場合は、ペンネームに続けて〔 〕に本名を付した。
 - (4)翻訳の場合、著者（筆者）、訳者の順番で記し、訳者には適宜（訳）を補った。
3. 書名（論文名）は次のように表示した。
 - (1)単行本、研究紀要、新聞、雑誌には『 』を付した。
 - (2)論文名、記事、抜刷、パンフレット類には「 』を付した。
 - (3)英文単行本の書名はイタリックで表示した。
 - (4)同一文献内に同じ著編者の論考がある場合、それぞれ独立したものとして表示した。
 - (5)タイトルは原則的に原文どおりに表示したが、タイトルに「 』が含まれる場合、適宜『 』に変更した。
 - (6)タイトルに含まれる漢数字は、算用数字で表記した。
4. 出版事項は、次のように表示した。
 - (1)発行所、発行年は原本どおり表記するが、和暦年号は西暦に変更した。再版（以降も）の場合、内容等に関して大幅な改訂がない限り、初版の出版事項を記した。
 - (2)新聞・雑誌の場合、誌（紙）名、巻・号、発行年月、新聞の場合には発行年月日を付した。
 - (3)インターネット上の文献の場合はアドレス（URL）と閲覧年月日を記した。
 - (4)漢数字は算用数字に変更した。

著者（筆者名）	題名	出版事項
C		
G.J. キャンベル	God and Gorilla: Religion and Science at Nijima's Amherst	『新島研究』107、同志社大学同志社史資料センター、2016.2.29
F		
布施智子	「新島襄と福地桜痴—新出資料「福地源一郎宛新島書簡」から—	『同志社談叢』36、同志社大学同志社史資料センター、2016.3.1
H		
畑敏道	「同志社大学天文同好会創立50周年記念特別展『新島襄の見た宇宙』」	『同志社時報』No.142、2016.10.1
I		
今高義也	「柏井園筆『新島先生追悼文』について」	『キリスト教文化研究所研究年報』49、2016.3.31
井上勝也	「新島襄研究上の問題点」	『新島研究』107、同志社大学同志社史資料センター、2016.2.29
石倉和佳	「徳富猪一郎旧蔵新島襄書簡草稿について—石川武美記念館成實堂文庫収蔵資料より—」	『同志社談叢』36、同志社大学同志社史資料センター、2016.3.1
五島桜子	「尹東柱～空と風と星の詩人」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
K		
金山垂未	「山本兄妹と川崎尚之助について」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
北垣宗治	「新発見の新島襄の英文書簡」	『同志社談叢』36、同志社大学同志社史資料センター、2016.3.1
小枝弘和	「新島襄の密出国時の服装について」	『同志社談叢』36、同志社大学同志社史資料センター、2016.3.1
熊谷朋乃実	「資料に見る新島襄の女性観」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
M		
森一郎	「J.N. Harris のメッセージ—J.N. Harris の手紙から—」	『新島研究』107、同志社大学同志社史資料センター、2016.2.29
本井康博	「新島襄の恩師たち（留学編）—新島伝の謎「受洗者は誰か」を解く」	『同志社時報』141、学校法人同志社、2016.4.1
本井康博	『新島襄と明治のキリスト者たち—横浜・築地・熊本・札幌バンドとの交流』	教文館、2016
本井康博	『新島襄の師友たち—キリスト教界における交流—』	思文閣出版、2016
本井康博	『自己発見のピルグリム 新島襄を語る・別巻（5）』	思文閣出版、2016
本山優紀	「戦後70年に際しての同志社と戦争の歴史考察」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1

O		
大江 流	「新島襄の脱国に貢献したブラキストン」	『函館俳句』28、2016.3.10
大越 哲仁	「蘇峰と新島夫妻(8) - 百足屋と愛松園」	『民友』403、公益財団法人蘇峰会、2016年1月1日
大越 哲仁	「新島襄と百足屋と愛松園—最晩年の新島が大磯で暮らした場所はどこか—」	『新島研究』107、同志社大学同志社社史資料センター、2016.2.29
大越 哲仁	「蘇峰と新島夫妻(9) 一襄の梅と八重の梅」	『民友』404、公益財団法人蘇峰会、2016.4.1
大越 哲仁	「蘇峰と新島夫妻(10) 熊本大地震からの復興と「国民新聞死せず」の精神」	『民友』夏季号 No.405、公益財団法人蘇峰会、2016.7.1
大越 哲仁	「蘇峰と新島夫妻(11) 歴史上の人物としての徳富蘇峰」	『民友』秋季号 No.406、公益財団法人蘇峰会、2016.10.1
大越 哲仁	「蘇峰と新島夫妻(12) 「蘇峰先生没後60年・第10回顕彰会」」	『民友』新春号 No.407、公益財団法人蘇峰会、2017.1.1
奥村 夏生	「医は愛なり—新島襄の考えた医学・看護教育—」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
小澤 早紀	「新島襄と教育理念」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
S		
世古口 鉦明	「今の同志社は新島襄の意志を継いでいるか」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
T		
田 島 繁	「新島襄と熊本バンドの足跡を辿る—熊本、水俣、阿蘇、柳川—」	『新島研究』107、同志社大学同志社社史資料センター、2016.2.29
高 久 嶺之介	「新島襄と京都府政の人々—大学設立募金運動をささえた人脈—」	『同志社談叢』36、同志社大学同志社社史資料センター、2016.3.1
田 中 智子	「同志社第一回『大学設立義捐金募集運動』—京阪神諸新聞社の報道にみる—」	『キリスト教社会問題研究』64、同志社大学人文科学研究所、2015.12.20
Y		
八木橋 康 広	『備中高梁におけるキリスト教会の成立—新島襄の伝道と新しい思想の受容—』	ミネルヴァ書房、2016
山 添 大 輝	「新島先生と徳富蘇峰の faith」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
養 田 真 世	「群馬におけるキリスト教の伝播と養蚕」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1
湯 川 哲 至	「なぜ新島襄は上州で受容されたのか—群馬のキリスト教と前橋英和女学校の視点から—」	『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』2016、2016.3.1